

成人男子の喫煙率は低下傾向にありますが、若い女性と未成年者の喫煙は増え続けています。中学3年生を対象にした調査では、「毎日喫煙する」が男子 25.9%、女子が 8.2%に及んでいます。非行歴のある問題児ではなく、ごく普通の子どもたちが好奇心から吸っているのが現状です。その動機は、「友達からすすめられて」、「かっこいいと思った」などのほんとは些細なことから吸い始めているのです。大人と違って、子どもの身体、とくに脳は柔軟で、薬物の影響を受けやすいために、一旦吸い始めると短期間でニコチン依存症になってしまいます。

このような未成年喫煙者に対して家族や学校でいくら叱責や謹慎処分にしたところで、子どもは大人以上に生理的に止め難くなっているのが効果上がりません。このような子どもたちを積極的に支援するために、こども病院では卒煙外来を本年1月から開設し、薬物による治療に当たっています。

一方、若い女性の喫煙率の増加により、妊婦の喫煙が大きな問題になっています。妊娠中の喫煙により、ほとんどの胎児の発育は損なわれ、子宮内発達遅滞児と呼ばれる低出生体重児として生まれてきます。もちろん、脳の発達も障害されます。少子高齢社会にあって、一人一人の子どもたちを大切に、健やかに育てるには、身近な問題をまずクリアしていくことです。